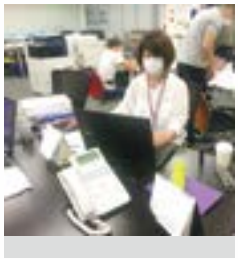
ミライクNews vol.9

＼私たちがオンラインでインタビューしました！／

山本 真帆さん　中島 祥那さん　鈴木 里奈さん

11月に開催される日本女性会議2020あいち刈谷（ミライク会議）に向けて、学生ジャーナリストたちが取材した内容を紹介します。今号は、刈谷市に住む外国籍の人にインタビューしました！



小池ソニアさん

30年前にブラジルから来日して以来刈谷市で暮らし、現在は人材派遣会社で専務を務めています。

ゴー タン フイさん（夫）
ファム ティ ホン トゥイさん（妻）

日本で働くために6年前にベトナムから来日したフイさんと、日本が好きで「住みたい」と思い、5年前にベトナムから来日したトゥイさん。

3歳半になる双子のお子さんと4人で暮らしています。

女性が働きやすい環境づくりを

「日本は女性の管理職への進出が少なく感じる。ベビーシッター文化が浸透しているブラジルに比べて、日本の女性は家事・育児の負担が大きく、キャリアが中断してしまう恐れがある」と話すソニアさん。

また、子育て中の社員から「学校からもらう書類の日本語が読めなくて困っている」と相談を受け、翻訳を手伝うこともあるそう。「困った時、近くに頼れる人がいれば、外国人がより責任のある仕事を持つことができるのではないか」と話していました。

学生の声

ブラジルはベビーシッター文化が当たり前になっていることを知り、日本との違いにとても驚きました。女性活躍という視点において他国の取組に関心を寄せ、さまざまな価値観を吸収することは大切だと感じました。

コミュニケーションをとる上で大切にしていること

仕事を通して、さまざまな国籍や立場の人と関わってきたソニアさん。コミュニケーションをとる上で大切にしていることは、「相手の話を否定しないこと、そして相手を尊重し、宗教や政治などイデオロギーに関わる部分には立ち入らず、相手の話に耳を傾けることだ」と話してくれました。

学生の声

多文化共生社会の実現に向けて、日頃のコミュニケーションからさまざまな国籍の人の意見や考えを聞き、尊重することは決して忘れてはならないことだと感じました。

外国人のための子育て支援の充実をもっと

「子どもの日本語の習得が進まず困っている」と不安そうに話すトゥイさん。今年4月に幼児園への入園が決まったものの、新型コロナウイルス感染症の影響で休園となり、日本語を教わる機会がなくなってしまいました。それに加え、家ではベトナム語で会話するため、日本語の習得に焦りを感じているそうです。

そのため、子どものおもちゃや本を外国人でも簡単に借りられる施設が充実すれば、より子育てしやすくなると考えており、「外国人の子どもに対するコミュニケーションの支援や日本の子育てに関する座談会などを毎週開いてほしい」と話していました。

学生の声

言葉の壁は、日本人の私たちが感じる以上に大きいものだと実感しました。先行きが不透明で不安が募りやすい今だからこそ、外国人の目線に立った支援がより求められているように感じました。

安心して長く働きたい

「外国人もより安心して長く働ける環境を整えてほしい」と話すフイさん。派遣社員として働くフイさんは、新型コロナウイルス感染症の影響で、以前より仕事が減り、今後仕事がなくなってしまうのではないかと、常に心配が消えないそうです。「もっと簡単に永住権を取得できるようになれば、もう少し安心して働くことができる」と話してくれました。

学生の声

新型コロナウイルス感染症のまん延により、働き方も変化する中で、外国人のための雇用の確保や安定を支援していく重要性を強く感じました。

編集後記

日本に住む中で大変なこともあるが、今後も日本に住みたいと話していた笑顔が印象的でした。

生の声を聞かなければ、外国人にとっての「日本語の壁」の大きさに気付きませんでした。日本に住む外国人がもっと安心して住みやすくなるために何ができるのかを考えなければならないと、改めて強く思いました。

（学生ジャーナリスト　山本、中島、鈴木）

この続きは、ミライク会議（11月13日㈮～11月15日㈰）に参加して一緒に考えましょう！

参加申込は、ミライク会議公式HPをご覧ください。

▲公式HP